タイトル	学部	授業名 （主たる教科領域）	執筆者
自分の気持ちを伝えよう！ ～今の自分の調子を発表しよう～	小	朝の会 ３年 （自立活動）	

１．A君の実態

・人への興味関心が広がってきていて、友達や教師と関わりたい気持ちが膨らんできている。
・自分の思いを言葉で伝えることが難しく、視線や直接的な行動で伝えることが多い。また、自分の気持ちがうまく伝わらずに不安定になる場面も多い。
・衝動性が強く、思ったことをすぐに行動に移すため、関わりたい一心で相手に了承しないまま行動を起こす為、トラブルになったりすることも多く、相手の“嫌な気持ち”を理解するのが難しい。
・事前に「こんなときはこうする」「これは〇、これは×」など伝えると行動を調整できる日が増えてきた。

２．自立活動のねらい

◎自分の思いを身振りや言葉で伝えられるようになる　※他2つのねらいは省略

心理的な安定（2－1）情緒の安定に関すること
人間関係の形成（3－1）他者との関わりの基礎に関すること
（3－2）他者の意図や感情に関すること
環境の把握（4－2）感覚や認知特性についての理解と対応に関すること
コミュニケーション（6－2）言葉の受容と表出に関すること

３．教材の設定理由

いずれは相手の気持ちに気づいたり、理解したりして行動の調整ができるようになることをねらっていくことを踏まえ、まずは自分の気持ちを知り、それを表出できるようになることをねらいに設定した。朝の会で呼名活動の後に「今日はどんな気持ち？」と聞いてもらい、イラストカードで答えられるようにした。

４．取り組みの様子

取り組み始めは、自分の感情を出すことへの抵抗があるようだった。また、“げんきカード”が良いことという意識があり、“しんどい”“かぜ”カードには「ちがう」と拒否する姿があった。“いろいろなきもちがあっていいねんで”と伝えるようにし、教師がげんきカード以外のカードを積極的に使うようにした。そのことで少しずつ他のカードへの関心が広がっていき、げんき以外のカードが貼られると笑っていた。

他の場面で、教師に指導されてイライラして荒い行動をした場面に「Ａくんイライラやなあ」とイラストカードに写真を貼り付けると、自分の気持ちを分かってもらったうれしさやばれてしまった恥ずかしさを感じている様子で少し照れくさそうにする姿があった。それをきっかけに、朝の会では、問われた時に、一旦自分の中でを考えてから“げんき”“いらいら”と伝えることが見られるようになった。また、げんきでもいらいらでもない日があり、「どうした？」とやりとりしながら、「ちょっと気持ちがしんどいのかな？」と代弁してもらうと、「うん。」と小さくうなずいた。その日から“しんどいカード”も追加した。他の子ども達も同様に行い、楽しみな活動の一つになった。

５．取り組みから

自分の気持ちを知ることとそれを相手に伝えて受け止めてもらうことで教師との関わりが深まったり、自己理解への力にもつながっていった。また、自分だけでなく、友達がどんな様子かも気になるようになり、「〇〇ちゃんは今日どんな気持ちかな？」と聞かれると、その子の様子をじっくり見ながら「イライラ？」とカードを貼り付ける等、相手の気持ちを知ろうとする姿勢も見られるようになった。